

**217** ポジトロンCTの肝疾患への応用

岡住慎一, 尾崎正彦, 山本宏, 吉田雅博, 阿部恭久  
高山亘, 山田滋, 榎本和夫, 磯野可一 (千葉大二外科)  
有水昇, 今関恵子 (同 放射線科), 植松貞夫 (同  
放射線部), 竜崇正 (千葉県がんセンター)

Positron CTによる肝腫瘍のイメージングを行った。  
トレーサーには、 $C^{15}O_2$  (血流量)、 $^{15}O_2$  (酸素代謝)、  
 $C^{15}O$  (血液量)、 $^{18}F-FDG$  (糖代謝) を用い、  
肝細胞癌、胆管細胞癌、大腸癌肝転移を対象とした。  
画像より求めた腫瘍-大動脈放射能濃度比を用いて比較  
すると、血流量は、肝細胞癌0.87 : 胆管細胞癌0.46 :  
大腸癌肝転移0.30, 酸素代謝は同様に、0.54 : 0.44 :  
0.30, 血液量は、0.30 : 0.12 : 0.03 であり、いずれも、  
肝細胞癌、胆管細胞癌、大腸癌肝転移の順であった。  
また、糖代謝は、正常肝に比し、黄疸肝、硬変肝共に低  
下を示した。